水戸偕楽園にてインターンシップ授業
～造園科初の試み～

～午前の部～

偕楽園の歴史を学ぶ

　金沢の兼六園、岡山の後楽園とならぶ「日本三公園」のひとつで、天保 13 年（1842 年）に水戸藩第九代藩主徳川斉昭が領内の民と偕に楽しむ場にしたいと願い、つくりました。13haの園内には約 100 品種、3000 本の梅が植えられ早春には多くの観光客でにぎわいます。

　偕楽園は梅の名所として有名ですが、その他にも四季折々の見所があり、春には桜、初夏には深紅のキリシマツツジ、真夏には緑あざやかな孟宗竹林や大杉森、秋には可憐な萩の花やモミジが見られます。これらを通して眼下に広がる千波湖を望む景観は絶景の一言です。

　孟宗竹林では、緑の風を感じながら優雅に散歩をしながら竹垣の構造の勉強をし、吐玉泉では大理石から湧き出る水に感動し、また水質検査を受けており湧き出る水が飲めると聞いた生徒は実際に手で水を触って確かめたりしました。東西梅林では、陰と陽の庭の説明を聞いて改めて昔の人の考え方はすばらしいと実感し、偕楽園は千波湖を含めた広大な公園だと聞いてその広さにビックリする生徒たちでした。

　また、徳川斉昭自らが設計したもので、木造２層３階建ての好文亭本体と木造平屋建ての奥御殿から成り、各所に創意工夫が施された好文亭を前に「階建てには見えない」とただただ驚いていました。午前の部はここで終了となり昼食をはさんで午後の部の梅の木剪定実習に入ります。午前の部で偕楽園の歴史に触れた生徒たちは午後の部からが本番です。やる気十分な生徒たちはまず腹ごしらえです。昼食をとりながらどの木を剪定するのか待ちきれないといった表情でした。

～午後の部～

５人１組となり合計８班編成をし、それぞれの班に職人１人が専属の教師となり、ハサミの使い方・三脚の登り方・どういった枝を切ればいいのかとレクチャーを受け、その後から実際に剪定作業に移りました。梅の木を剪定するのは初めてのことなのでいつにもない真剣な表情で説明を聞く生徒たちです。女子４人も男子に負けず劣らず職人になりきって作業していました。

最後に、インターンシップ授業にご協力いただいた方々にお礼申し上げます。

（ハサミ・剪定ノコの使い方を学ぶ生徒）